

工業簿記 組別総合原価計算

パターン I 【平均法・元帳の作成】

A工場ではXとYの2種類の製品を製造・販売しており、製品原価の計算は組別総合原価計算を採用している。製造費用を原料費、直接労務費および製造間接費に分け、原料費と直接労務費は各製品に直課し、製造間接費は直接労務費を配賦基準として各製品に実際配賦している。原価投入額を完成品総合原価と月末仕掛品に配分する方法は平均法を用いている。次の【資料】にもとづいて、組別総合原価計算表と仕掛品勘定の（ ）内に適切な金額を記入しなさい。

【資料】

1. 生産データ

X製品		Y製品	
月初仕掛品量	450 個 (40%)	月初仕掛品量	400 個 (50%)
当月投入量	1,500 個	当月投入量	1,900 個
合計	1,950 個	合計	2,300 個
差引：月末仕掛品量	300 個 (60%)	差引：月末仕掛品量	600 個 (50%)
完成品量	1,650 個	完成品量	1,700 個

2. 原価データ

X製品		Y製品	
月初仕掛品原価		月初仕掛品原価	
原料費	375,000 円	原料費	111,000 円
加工費	597,000	加工費	272,000
〔内訳：直接労務費〕	279,000	〔内訳：直接労務費〕	128,000
〔製造間接費〕	318,000	〔製造間接費〕	144,000
小計	972,000 円	小計	383,000 円
当月製造費用		当月製造費用	
原料費	1,263,000 円	原料費	855,000 円
直接労務費	2,640,000	直接労務費	1,440,000
製造間接費	(?) 円	製造間接費	(?) 円
小計	(?) 円	小計	(?) 円
合計	(?) 円	合計	(?) 円

3. 製造間接費合計 4,896,000 円

- (注) ・ () 内は加工費の進捗度である。
・ 材料費は工程の始点で投入している。

組別総合原価計算表

(単位：円)

	X製品			Y製品		
	原料費	加工費	合計	原料費	加工費	合計
月初仕掛品原価						
当月製造費用						
合計						
差引：月末仕掛品原価						
完成品総合原価						
完成品単位原価	-	-		-	-	

仕 掛 品

(単位：円)

月初有高	()	X 製品	()
原料費	()	Y 製品	()
直接労務費	()	月末有高	()
製造間接費	()		
<hr/>		<hr/>	
<hr/>		<hr/>	

参考メモ【仕掛品ボックス】

X仕掛品－原料費

月初有高		当月完成	
当月投入			
		月末有高	

X仕掛品－加工費

月初有高		当月完成	
当月投入			
		月末有高	

Y仕掛品－原料費

月初有高	当月完成
当月投入	月末有高

Y仕掛品－加工費

月初有高	当月完成
当月投入	月末有高